

第2回流山市環境基本計画策定部会 議事録

平成26年1月22日(水) 9時開会 12時閉会

出席委員：

吉永明弘部会長、和田登志子副部会長、新保國弘審議会会長、中大路早智江委員、秋元五郎委員
事務局(環境政策課)：

染谷課長、齊藤課長補佐、遠藤副主査、岩田主事、小山内事務員
リジオナル・プランニング・チーム(コンサルタント)1名

1. 環境の現況及びアンケート結果について(コンサルタントによる説明)

委員からの意見等

	要旨
委員	対象者3000人の抽出方法を確認したい。
事務局	8つの中学校区を2中学校区ずつの4区分、各750人として無作為抽出を行った。
委員	回答者の居住地区別に年代構成を知りたい。
事務局	クロス集計で把握する。本市は県内でも若年層の比率が高い部類にあり、人口も増加している。
委員	例えばごみの量、緑地面積について、県内他市との定量的な比較があるとよい。
事務局	県の統計年鑑により比較する。
委員	野田市が価格の高い有料のごみ袋によって減量化に成功している。東葛地域での比較がよいように思う。
委員	千葉市も家庭ごみ手数料徴収制度を2月から導入する。
事務局	本市では数年前に検討した際、見送った経緯がある。
委員	流山市の良さは緑であり、環境に関心が高い人が移住してきたので、ごみの量も少ないのではないかと。店頭での資源回収も早い時期に始まっている。緑への関心が高いのだから、都市開発によって減った緑と、逆にマンション緑化や植樹で増やした緑について、正直に周知していくことで、さらなる意識高揚につながるのではないかと。また、飲み水への関心が高いのは、安心安全のまちが売りになるということではないかと。現実をきちんと知らせ、市民が現実的に考えることが望ましいと思う。環境が良くなるのも悪くなるのも、市民次第だと思う。
委員	生ごみ処理器の認知度が下がっているのには、集合住宅でコンポストが使えないことが影響しているのではないかと。また、最近の集合住宅ではディスポーザーが装備され、市内で2500世帯程がディスポーザーを使っている、それらの世帯からは生ごみがほとんど出ない。住居の属性もわかるとよかった。
委員	ディスポーザーで排水に流れた生ごみは、どのように処理されるのか。河川の汚濁にはならないのか。
委員	集合住宅の建物に浄化槽があるというイメージを持っていただいてよい。そこで微生物による処理を行い、上澄みは下水道に流し、汚泥は回収して市のし尿処理施設で処理される。
事務局	汚泥は脱水されるので、元の生ごみより減量となる。下水道は江戸川左岸の流域下水道で、

	市川市の終末処理場で処理、放流される。下水道の普及に伴い、し尿処理量は減少している。
委員	今回のアンケートをみて、アンケートの意味と結果、市の対処について、しっかり知らせる必要があると思う。特に、緑の減少、利根運河の水質についてお願いしたい。
事務局	アンケート結果については、最終的にまとめたものを、ホームページ等で公表し、庁内の他部署にも提供する。数字の背景を把握して、取組に活かしていきたい。緑については、TX整備によって致し方ない面もあったが、できるだけ緑の回復を図っていくというのが、市の考えである。グリーンチェーンや植樹など、市民や事業者の協力を得ながら、色々な緑化に取り組んでいる。利根運河は、所轄する国土交通省が、利根運河協議会を設置して取り組んでいる。河川事務所の河川管理だけではなく、環境の面にも取り組む動きはある。
部会長	環境施策、市民参加、情報公開、応答責任といった観点から、アンケートに見られる傾向に対して、先程から述べられているような市の考えを公表することによって、アンケートが受け止められたという市民の実感、市と市民の信頼関係が強まり、アンケートの意義が高まると考える。
事務局	現段階で、アンケート結果を資料として計画書に掲載することと、課題や取組の背景として取り上げることは考えている。また計画書は、読みにくい分厚いものではなく、市民も職員も手にとりやすく、環境に関する方向性がわかりやすいものに編集する方針である。
部会長	事業者の自由意見に、フランチャイズのため回答が困難というのがあり、自主的に行動できる事業者とそうでない事業者がいることがわかる。
委員	自分も、チェーン本部の指示がなければ取り組まないということに思えて、気になった。
事務局	大きな組織をもって、全体がしっかりとした環境対策、環境マネジメントを行えるという面もある。
委員	自由意見に通し番号を付けた方が、拾い上げての議論がしやすい。また、似たような意見が分類されるとよい。
部会長	チェーン店が増えるほど、地元ではない本部の意識が働くようになるが、必ずしも環境対策にマイナスということではない。
委員	ISOのように全国的なレベルが実現することで、地元にもよい影響があるかもしれない。
事務局	環境マネジメントを導入しても、個々の職員の意識がなければ成果にならない。ハード、ソフト、ハートの分類で言うと、ハートの啓発の部分の充実が求められると感じる。
複数	このアンケートには色々な意見が寄せられており、よかったと感じる。
委員	自分が参加している他所の活動で上海を視察したが、とてもひどい環境であった。空が灰色で、人が住むとは思えないほどの大気汚染であった。地球規模で環境を考えないといけなかったと思ったが、自分達の取組に自信を失う感じもした。
委員	昔の日本でも放っておいたらそうなっていたと思う。そのことを覚えながら、私たちは地域でよりよい環境を目指せばと思う。
委員	自由意見にも見られるように、どうしてこうなったのかを考えなくてはと思う。また、市外の人の流山市への意識も知りたいと思う。「都心から一番近い森のまち」としてどう見られているのかなど。

委員	多摩ニュータウンの人から、流山の印象が良いと聞いている。
部会長	自宅の松ヶ丘に来た知人は、環境が良いといていた。このアンケートでは、居住歴の長い回答者による緑が減ったという意見が多いのかもしれない。
委員	「都心から一番近い森のまち」というフレーズはとてもいいと思う。市民の心の中に緑を植えていくようなものだと思う。家が増える中でも、緑やごみ、環境を意識してもらえるとよい。
委員	市野谷の森は県立公園となる予定だが、そうなるまでの取組の結果、駅名や学校名におおたかが使われるほどまでできたのだから、これからも環境のイメージづくりを進めなくてはいけない。
委員	利根運河のことで、水が減ったのが汚濁の原因だが、水を増やすには多くの経費がかかるときいている。
委員	利根運河では取組が進んでいるので、徐々に良くなっていくと思う。本来流すべき水量は限られており、水が多すぎると農業に害が生じたりする。緑が減ったと嘆く声が多いが、市野谷の他にも、TXが決まる前に保全に向けた行動をするべきであった。
委員	流山は環境だけでなく地盤が良いので、震災にあった浦安から移住したという人がいる。防災マップを見るとわかる。
委員	シンポジウムを開いて、アンケートをもとに話し合うとよい。色々な話がでて、おもしろくなると思う。
事務局	計画策定の中でのシンポジウムは難しいが、別の機会や手法で考えていきたい。
委員	太陽光発電や断熱窓については、関心有りが6割を超えているのだから、補助金などがきっかけとなれば、自然と導入が進むのではないか。
事務局	市としては、地域の特性を踏まえて、太陽光を主体とした導入支援を行っている。さらに、県補助を活用したエネファーム等に関する補助も始めている。
委員	蓄熱暖房器がアンケートの項目には含まれていないようだが、自分が導入したところ、省エネでも暖まり方でも良い結果となった。他の人にも勧めたいところである。断熱材や二重サッシ、対流のシステムも必要となるが、それらで夏は涼しくなる。
委員	環境家計簿は続けるのが大変だが、今のシステムなら自動的に電力消費等が記録されるので、楽に管理できる。
委員	水道だって供給にエネルギーを使うので、雨水利用がもっと進むとよい。マンションでは難しいと思うが。
委員	こういった設備は難しいと思っていたが、勉強になる。
委員	コンポストは温度管理が難しく、夏は冷やさない臭いで迷惑をかける。
事務局	アンケート結果と皆さんの意見を伺うと、現計画の「水・緑・歴史の豊かさを未来に伝える」という将来像が概ね合っているという印象を持った。今後の段取りについて皆様に伺いたい。審議会にアンケート結果と環境の現状、及び部会意見を報告する前に、もう1回部会で話し合うべきか、それとも、本日の議論の内容でまとめてよいか。
(総意)	本日の議論をもって、審議会へ報告されたい。
委員	地球温暖化への意識が低下傾向にあるが、最も大きな、全てにつながる問題という認識が

	大切である。
委員	自然環境について、それぞれの場に応じた指標となる生きものを決めて、わかりやすく伝えていく必要がある。動植物の種類を見分けたり覚えたりすることは、一般の人には簡単ではないので、子どもの頃から教えて、関心を高めていきたい。駅前でのイベントも、環境のPRに活かしていきたい。
委員	流山市での二酸化炭素排出削減には、緑も大切だが、やはり太陽光発電への認識を高めていく必要があると思う。但し、悪質な業者にやられないよう、市の認定などが必要と思う。
委員	農林地での太陽光発電設置が進むと、その開発によって緑が減る可能性がある。斜面林を保護する仕組みはない。自然保全と温暖化対策が反する場合もある。
委員	開発するのなら、地域経済や税収からみた必要性について、具体的にわかりやすく説明してもよいのではないか。企業活動や地域貢献について、知らない人が多いと思う。

意見(概要)	対応等
●分析方法について	
・居住地区別の年代構成を知りたい	クロス集計により把握する
・ごみ量や緑地面積を、県内や東葛地域で比較したい	千葉県統計年鑑により比較分析する
・自由意見に通し番号を付け、類似の意見をまとめてほしい	対応する
●意識や現状に関する意見交換	
・流山の環境の良さを求めて移住した人が多いため、緑や飲み水への関心が高く、ごみが少ない	
・飲み水への関心の高さは、安心安全を求めている	
・流山市の緑の良さは、市外からも認知されている	
・チェーン展開の事業者は、本部の方針で環境対策が決定するので、自主的な意識とは異なる	
・利根運河の水質改善は徐々に進んでいく	
・自由意見には緑が減ったことへの不満が多いが、TX計画以前に行動すべきであった	
・流山市の地盤は、良さのひとつである	
・太陽光発電をはじめとして、エネルギー対策の住宅設備に関心が高いので、普及の可能性がある	
・蓄熱暖房と断熱、対流システム等の組み合わせで、自宅の省エネが実現している	
・太陽光発電等では悪質な勧誘・販売への懸念がある	
・太陽光発電設置により、農林地等が開発され、緑が減る懸念がある	

<ul style="list-style-type: none"> ・今のシステムは、環境家計簿より楽に、エネルギー消費の記録が可能 	
<ul style="list-style-type: none"> ・水道供給には多大なエネルギーがかかっているので、雨水利用が有効 	
<p>●アンケートの活用について</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・市はアンケート結果をどのように活かすのか ・市の考え方を公表することにより、アンケートが受け止められたという市民の実感、市と市民との信頼関係が強まり、アンケートの意義が高まる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ等で公表する ・庁内各部署に提供する ・数字の背景を把握し取組に活かす ・計画書で、資料として掲載する ・計画書で、取組の背景等として説明し、計画の方針や施策に関係付ける形を考える
<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果をもとに話し合うシンポジウムを開催するとよい 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画策定とは別に検討する
<p>●今後の取組について</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・減少した緑と増やした緑(グリーンチェーン、植樹等)について、正しい情報を周知するべき 	
<ul style="list-style-type: none"> ・水道水や地盤をもとに、安心安全のまちのイメージを持たせるべき 	
<ul style="list-style-type: none"> ・市民に現実を知らせ、市民が現実的に考える情報を提供するべき 	
<ul style="list-style-type: none"> ・地球温暖化の重大性を認識するべき 	
<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境の指標生物を定めて、自然教育や意識高揚に活かすべき 	
<ul style="list-style-type: none"> ・駅前イベントでPR活動を盛り上げるべき 	
<ul style="list-style-type: none"> ・開発と環境について市民が考えられるよう、経済や企業、税収のことも具体的に知らせていくべき 	